

## 第79回全国都市問題会議報告書

平成29年11月13日

貝塚市議会議員 田中 学 殿

自由市民 食野雅由  
田畑庄司  
議長 田中 学

### [開催概要]

主催 全国市長会  
(公財)後藤・安田記念東京都市研究所  
(公財)日本都市センター  
那覇市

協賛 (公財)全国市長会館

会場 那覇市 沖縄県立武道館

日時 第1日：平成29年11月9日(木)9:30～17:00  
第2日：平成29年11月10日(金)9:30～12:00

日程 第1日：平成29年11月9日(木)9:30～17:00  
開会式  
・開会挨拶 全国市長会会長 松浦 正人氏  
・開催市市長挨拶 沖縄県那覇市長 城間 幹子氏  
・来賓祝辞 沖縄県知事 翁長 雄志氏(代理)

基調講演  
「多様性のある江戸時代の都市」  
東京大学史料編纂所教授 山本 博文氏

主報告  
「ひと つなぐ まち ー新しい風をつかむまちづくりー」  
沖縄県那覇市長 城間 幹子氏  
(昼食・歓迎アトラクション)

一般報告  
「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」  
ー人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か?ー  
首都大学東京大学院人文化学研究科准教授 山下 祐介氏

一般報告

「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」

北海道釧路市長 蝦名 大也氏

一般報告

「新たなステージに入った沖縄観光」

ー複合的な魅力を有するハイブリットリゾートへー

琉球大学観光産業科学部長 下地 芳郎氏

第2日：平成29年11月10日（金）9:30～12:00

パネルディスカッション

「ひとつがたぐ都市の魅力と地域の創生戦略」

ー新しい風をつかむまちづくりー

- ・ コーディネーター

早稲田大学理工学術院教授 後藤 春彦氏

- ・ パネリスト

株式会社能作代表取締役社長 能作 克治（代理）

まちひと 感動のデザイン研究所代表 藤田 とし子氏

沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田 大一氏

福井県勝山市長 山岸 正裕氏

静岡県島田市長 染谷 絹代氏

閉会式

次期開催市市長挨拶

新潟県長岡市長 磯田 達伸氏

閉会挨拶

後藤・安田記念東京都市研究所理事長 新藤 宗幸氏

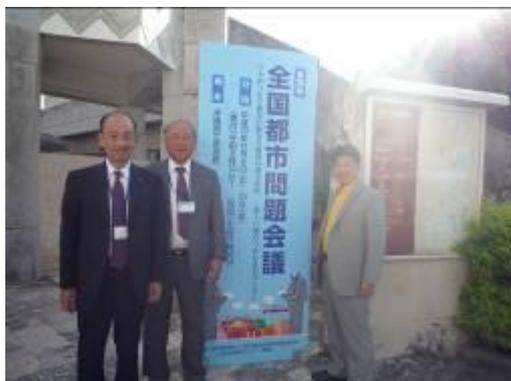
（昼食・行政視察）

報 告

閉会式終了後、東京大学史料編纂所教授である山本 博文氏の基調講演がありました。テーマは、多様性のある江戸時代の都市で、先ず江戸時代における巨大都市と多様な町についてで、江戸時代の町の特徴は、江戸に象徴される都市の巨大化と城下町・宿場町・門前町・港町など多様な町の発展で特に、江戸・京都・大坂は三都と称されそれぞれ大都市として発展していき、諸国（地方）の米が集まってきてうまくバランスが取れていたそうです。その上、参勤交代が、街道と宿場町の発展に大きな役割をもたらし、江戸と諸国の格差を軽減した要因であったそうです。これに類似したものに庶民のお伊勢参りがあり、

他にも善光寺や金比羅宮があったそうです。又、この時代に流通網が形成され北前船は全国各地に蝦夷地の海産物を運び港町も発展していったそうです。このような江戸時代のまちづくりが現在に続いてきているといわれていました。

続いて、開催市である那覇市長城間幹子氏から主報告がありました。先ず那覇市の概要の報告がありました。次に那覇市の魅力について亜熱帯の気候と風土に育まれた沖縄独自の歴史、文化、風習を熱く語られていました。そして、那覇市の抱える課題とその取組みの報告があり、最後に那覇市が目指すこれからの都市像として、「ひと つなぐ まち」のキャッチフレーズのもと、ひととひとと地域、そしてひとと地域と企業をつなぎ、その絆を幾重にも紡ぎあげ、大きな布としてまち全体をやさしく包むものと確信をされているそうです。



昼食の後、「人口減少社会の実像と都市自治体の役割について」というテーマで、首都大学東京大学院人文化学研科准教授山下祐介氏から一般報告がありました。先ず、地方消滅から地方創生について、東京一極集中と人口減少社会の問題を解説されました。そして人口減の悪循環をどう読み取り、人口減が財政難につながり、十分な公共サービスが提供できなくなる自治体が更なる少子高齢化が進んでいくであろうとありました。そこで、本来の人口ビジョンの考え方と総合戦略のあり方についての解説がありました。そして結びに、成長社会の限界についてリスク社会から、リスク対応社会を経て、安定持続社会へと、この人口問題を解決していくのに必要なきめ細やかな住民の参加との促進、協働を前提とした政策形成の場づくりこそが求められているものであると結論されていました。

次に、北海道釧路市長蝦名大也氏から「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」というテーマで一般報告がありました。釧路市における地方分権と地方自治について報告があり、自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくりの取組みの報告がありました。そして将来を見通したまちづくりの構想の報告がありました。

そして第1日目の最後に、「新たなステージに入った沖縄観光」ー複合的な魅力を有するハイブリットリゾートへのテーマで、琉球大学観光産業科学部長下地芳郎氏からの一般

報告がありました。下地氏からは、観光からツーリズムへと変わる中で都市にとって大きなチャンスであることの考えの報告と、沖縄観光の歴史を分析されていました。そして沖縄観光の現状の報告があり、そして沖縄観光の課題、特に那覇市などの都市部に関するインフラ整備等の課題を指摘され、最後に那覇市にたいしての期待を述べられこの日の予定が終了しました。

第2日は、「ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」サブタイトル新しい風をつかむまちづくりのテーマでパネルディスカッションが行われました。コーディネーターに早稲田大学理工学術院教授の後藤春彦氏、パネリストに株式会社能作代表取締役社長 能作克治の代理で長女の能作千春氏、まちひと感動のデザイン研究所代表の藤田とし子氏、沖縄文化芸術振興アドバイザーの平田大一氏、福井県勝山市長の山岸正裕氏、そして静岡県島田市長の染谷絹代氏でありました。まず、後藤氏からこのパネルディスカッションの進め方と趣旨の説明がありました。そして、静岡県島田市長の染谷絹代氏から、島田市の紹介、市民との協働・連携の取組みの報告がありました。その中で、市民参加型シティプロモーション「島田市緑茶化計画」の取組みの報告がありました。それは、島田市の特産品である緑茶をメインに産官学とまち全体で様々な事業をされています。それは、ロゴマークを利用したイメージアップの取組みや、郵便ポストの塗装を緑茶グリーンに染めた取組み、緑茶粉末チョコレートの発表などです。その後、広域連携の新たな取組みや今後の目標を述べられていました。

次に、福井県勝山市長山岸正裕氏から勝山市の取組みの発表がありました。初めに、勝山市の概要の説明があり、まちづくりの理念と構想についての報告があり、続いて色々な勝山市の事業の取組みの発表がありました。

次に、まちひと感動のデザイン研究所代表の藤田とし子氏から、行政と市民の間をサポートする立場からの報告がありました。まず、市民が主役のまちづくりを実現する活躍の舞台を創る事例が報告されました。それは、経験を基にしたノウハウ・アドバイス・ネットワーク作りのサポートであると言われていました。そして今後、若者世代の活躍が新たな地域価値を創出すると説かれていました。

次に、株式会社能作代表取締役社長能作克治氏の代理で、長女の能作千春氏から民間からの視点で、産業観光による地方創生についての報告がありました。同社は、富山県高岡市において伝統産業である鋳造業を営む会社で、独自の観点から新たな取組みをされて鋳物職人の技を元にイノベーションを成功された企業で付加価値を持った製品の製造販売に大きな成果を上げたと感じました。観光産業としての工場見学や体験工房、情報発信、直営販売、飲食サービスに亘るまで地元と連携した地方創生に邁進している企業で地域の観光産業のリーディングカンパニーであると思いました。

最後に、沖縄文化芸術振興アドバイザーの平田大一氏から、感動立県おきなわを目指してというテーマで発表がありました。平田氏は、沖縄で活躍する演出家で 42 歳の 2011 年

に当時の仲井間知事から沖縄県文化観光スポーツ部の初代部長に民間から就任の依頼を受け就任されたそうです。当然、県内騒然の異例人事であったことは言うまでも無かったそうです。そして県の文化観光スポーツに関する事業を、舞台づくり目線で運営していかれたそうです。それは、その成功の鍵は3つの要素が必要であり、それは台本（ストーリー）と配役（キャスティング）と予算（バジェット）であると考えられていたそうです。これを行政の仕組に直すと「計画と人事と予算」ということに気づかれたそうです。常に上位計画に基づいた施策を考え予算化していく。それを動かし、実行するためには適材適所を考えた人事が重要であり、キャスティングいかんで舞台もいきいきしてくる。良い台本と良い配役は重要であると言われていました。以上でパネリストの一連の報告が終わり、コーディネーターの後藤氏がそれぞれのパネリストに地域創生についての思いなどを聞いてパネルディスカッションが終了しました。

最後に、閉会式に移り、次期開催市である新潟県長岡市長磯田達伸氏から来年の開催に向けての思いをこめた挨拶があり、締めくくりは（公財）後藤・安田記念東京都市研究所理事長の新藤宗幸氏から閉会の挨拶があり2日間による会議は終了しました。

昼食の後、行政視察として「旧海軍司令部壕と沖縄空手会館を巡るコース」に参加しました。途中車窓からちょうど那覇港に停泊するサファイアプリンセスに遭遇し多くの観光客が那覇市に来ているのを目の当たりにし、貝塚市のクルーズ船の誘致に向けた取組みに頑張ろうと思いました。以上、第79回全国都市問題会議の報告といたします。



沖縄空手会館



那覇港に停泊するサファイアプリンセス